

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

インフレと価格 (富は移転するか)

トルコという国はご存じだと思うが、トルコが昨年まで世界最高額の紙幣「2,000万トルコリラ」を発行する国家であることは知っていただろうか。私も正月早々の新聞で知って驚いた。新聞は「世界最高額紙幣が消える - トルコでデノミ実施」を伝えていた。90年代100%を超す高インフレに悩んだトルコが、インフレ沈静化を機に、1月1日を以て100万トルコリラを1新トルコリラにすることにしたというのだ。2,000万といえば日本では家が一軒建つ数字であるが、トルコの2,000万は円換算でたった1,500円程度の価値しかなかった。そんな滅茶苦茶な金融経済状況を頭の中でどう想像すればいいか難しいが、日本において1年で物価が10倍となるインフレが起こったらどうなるかを宮田八郎という大学教授が雑誌で予想していた。面白かったので紹介する。

宮田教授は、年10倍(=1,000%)のハイパーインフレが起こり、これが1年で収束、収束と同時に10分の1のデノミを行う、という前提条件で価格の推移を下表のように予想している。

現在	年10倍のハイパーインフレによる価値変動	1/10のデノミ実施	得失
ラーメン500円	価格: 500円 × 10倍 = 5,000円	価格: 500円	損得なし
預金1億円	元本: 1億円のまま(実質1/10) 金利(理論値): 1億円 × 1,000% = 10億円 金利(実際): 1億円 × 10% = 1,000万円	元金: 1,000万円 金利: 1,000万円 計: 2,000万円	80%失う
土地1億円	価格: 1億円 × 10倍 = 10億円	価格: 1億円	損得なし
株式1億円	価格: 1億円 × 10倍 × 30% = 3億円	価格: 3,000万円	70%失う
国債1億円	価格: 1億円のまま(物価連動債は異なる)	価格: 1,000万円	90%失う
借入金1億円 (変動金利) (固定金利)	元本: 1億円のまま(実質1/10) 金利(理論値): 1億円 × 1,000% = 10億円 金利(実際): 1億円 × 1,000% × 60% = 6億円 1億円 × 20% = 2,000万円	元金: 1,000万円 変動金利: 6,000万円、固定金利: 2,000万円	変動金利なら30%カット 固定金利なら70%カット

金利計算において「理論値」と「実際」とに分けているが、これは金利上昇と実際の金利適用にタイムラグが生じることを組み込んでいるためである。実際ハイパーインフレが起こった場合、日々金利が上昇するので、預金者は高金利を享受するまで時間がかかり、逆に債務者は高金利を支払うまでタイムラグが発生する。宮田教授はその辺を考慮して金利を10%とか20%に設定している。又、株式においては経済混乱で7割程度暴落すると予想している。上表を見て貴方はどう思うだろうか。

このように計算通りになるとは思えないが、インフレが金融資産の価値を奪うことは確かなことだ。預金や国債は大幅減価し、借金は軽くなる。それに対し、実物資産の実質価値は変動しない。価格的に上昇しても、通貨価値が下落しているので行って来いとなる。判断が分かれるのは株式である。私は宮田教授と違って株式が70%価値を失うとは考えない。経済混乱による市場全体の下落はあると思うが、それを補って余りある逞しさが企業にはあるように思うのだ。しかし、いずれにせよハイパーインフレが一般国民、特に高齢層を苦しめるのは間違いない。実際、起こる可能性は全くないのだろうか。

私は、宮田教授と同じように、将来、日本にハイパーインフレが起こる可能性は「ある」と考えている。この10数年、日本経済はデフレデフレできたので「その時」どういう状況が到来するのか予想するのは難しいが、今の経済状況(公的部門の超肥大、超低金利政策、超金融緩和政策)は確実に悪性インフレの種を地中に蒔いているように思うのだ。

歴史は繰り返す。経済規模は全く違うとはいえ、太平洋戦争末期と同レベルに達した公的債務を家計が肩代わりするにはハイパーインフレしかないのではないだろうか。

Weekly Fax Report

《複製・転載等はこちらへご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

2005.2.12(第448号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp